



2021年(令和3年)2月号

中野区立江原小学校 学校便り

校長 根来 郁明 児童数512名

学校教育目標自立し、共に生き、平和を求めの子
『かしこく』『やさしく』『たくましく』**教育活動の充実を目指して****校長 根来 郁明****1 教育課程検討中 ～よりよい教育活動を目指して～**

教育課程は、校長の責任において編成するものです。各教科、特別の教科 道徳、外国語活動、総合的な学習の時間 及び 特別活動について、それらの目標やねらいを実現するために、教育の内容を学年段階に応じ、授業時数との関連において総合的に組織した学校の教育計画です。

江原小では、令和3年度に向けて教育課程の編成作業を行っています。どの教育活動を重点的に取り組むのか、どの場面でどの教育活動に取り組むと効果的か…等を考え、教務主幹教諭を中心に教職員全員で協力して編成しています。

これまでも、学校便りを通して、学校経営方針や教育活動の様子等、様々な情報を伝えてきました。しかし、先月実施した保護者アンケートでは、「教育活動の様子がわからない」の回答で15%を超える項目が、28項目中13項目ありました。新型コロナウイルス感染症ため教育活動が制限されていたことは、言い訳になりません。伝えつつもりになっていても、十分に説明できていない部分があったと反省しています。学校便りやホームページ等を通して、教育活動の様子を積極的に発信していくことはもちろん、その「ねらいや効果」、その活動は「どんな力をつけさせるための取組なのか」「どんな力がついたのか」等、積極的に発信していきたいと考えています。

2 子供たちの将来のために

令和3年度から始まる『GIGAスクール構想』では、一人一台のPC端末と高速大容量の通信ネットワークを整備することで、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、子どもたち一人ひとりに公正に個別最適化され、資質、能力を一層確実に育成できる教育ICT環境の実現を目指しています。PC端末の活用による教育効果として、「双方向型のやりとり」があげられています。双方向型のやりとりをすることによって、多様な情報や価値観を受け止め、学びを広げ、深めることができます。また、「個別の最適化」として、一人ひとりの興味関心や学習の理解度、学ぶペース、学び方等に応じて、いつでも、どこでも学べるように個々の学習を最適化することができますとされています。

現在、江原小では、子どもたちの興味関心を高めるため、電子黒板や実物投影機等のICT機器を活用して授業を行っています。次年度以降、一人一台のPC端末があることで、検索サイトを活用した調べ学習や文章作成ソフトやプレゼンテーションソフトの活用はもちろん、個々の考えをまとめて発表したり、共同編集したりすることができるようになります。教員は、授業中に個々の反応を把握でき、きめ細やかな指導が可能になります。また、個別学習では、学習履歴を記録することで、個々の進捗状況にあった内容を学習することができ、個々の教育ニーズや理解度に応じた指導が可能になります。さらに、グループ学習では、端末を活用することにより、個々が集めた情報を即座に共有し、多様な意見にも触れることができるようになります。

将来、子どもたちが生きていく時代では、仕事でも家庭でもICT機器を活用し、いろいろな人や社会とつながりながら生活していくことが当たり前になっているはずです。子どもたちが大人になった時に自分の力で生きていけるよう、少し未来ではなく、「子どもたちの将来」を意識した教育活動を実施していきたいと考えています。